

大規模増殖場開発事業関連調査

(大間地区)

(要 約)

足助 光久・沢田 満・能登谷正浩

大間地区における大規模増殖場開発事業は昭和51～52年度に事前調査が行なわれ、昭和53年度より事業が実施されている。

本事業はコンブ・ウニの増産を目的とし大間町ならびに佐井村管内の低利用砂礫地帯を対象に石材及びコンクリート・ブロックを配置した増殖場を造成するものである。

施設の構造は既に事業が実施されている今別、石持地区と基本的に同じであるが、本地区の海底性状は前2地区に比べ転石が多い傾向を示している事から、コンブ区の石材敷設率を低く設定すると共に、造成面積は500×500、300×600、300×300 mの3種とし、それぞれの開発適地の広さに応じて造成している。

事業の実施状況は昭和54年度3事業区、55年度4事業区が完成し、本年度に於て7事業区、合計14事業区が完成する予定である。

本調査は昭和54年度に完成した№5、7、13の3事業区を主体にコンブの着生、ウニの生息状況を把握し、生産効果、有効利用方法等の検討を行なったものである。当該3事業区における2年生マコンブの着生は、コンブ採取前の6～7月の調査時に№5、7で7.3本/m²、№13で1.9本/m²となっており、№13ではコンブの着生がコンブ区沖側半域に限られていた為、低い値を示したが、№5、7では設計数値の5本/m²を上廻る良好な状態となっていた。これら3事業区からのコンブの生産は合計950 t(生)、143,105千円となり計画生産に対し数量で140.7%、金額で85%の達成率となった。

またコンブの他にキタムラサキウニの生産が№13事業区から420 kg(ムキ身)、4,200千円となっており、副次効果が現われている等の結果が得られたが、調査結果については別途報告の予定である。

なお現地調査に際し御協力頂いた大間町、奥戸、佐井村漁業協同組合ならびに大間町、佐井村役場の関係各位に厚く御礼申し上げます。